

シリーズ

“キラリ企業”の現場から 第39回

会社のさまざまな支援サービスをご利用いただいている元気企業を紹介する“キラリ企業”の現場から。第39回目は、「指紋認証」と「セキュリティ」で世界発信を目指す株式会社アイ・ティ・シーをご紹介します。同社には、会員制福利厚生制度「JOYLAND」(本誌P13参照)、海外展開自立化支援事業をはじめ多数の支援メニューをご利用いただいています。

“人”を育て、飽くなき向上心で世界に挑む!「ソフトウェア職人氣質」

株式会社アイ・ティ・シー

バブル崩壊後間もなくの創業

株式会社アイ・ティ・シーは、平成6年7月、現在本社を構える昭島市で、大手メーカーである沖ユニシス株式会社出身の技術者13名が発足させた会社である。沖ユニシス株式会社が、経営戦略の転換により日本国内でのコンピュータ製造の停止・会社の閉鎖を決めたことがきっかけだった。バブル経済が崩壊し、日本経済が停滞した状況での起業。「廃業するために創業するのか」とまで言われた。当時、社長の古川氏は45歳。「創業」という新たなスタートを切るのは冒険だったかも知れないが、夢を捨てて残りの人生を生きていくにはまだ早すぎる年齢だった。

このように厳しい環境のもとで創業した同社も、今年で設立15周年を迎える。

社員も50名を抱え、この不況にもかかわらず、今春は3名を新規採用した。「成功の要因は？」との問いに、古川社長は「高い技術力」とざらりと答えた。大企業にいた技



「チャレンジ精神を持ち、常に創造と革新を」と語る古川社長

術者が作りあげた企業だからこそ、その経験と技術力を活かして、「メーカー依存型」ではなく、「自社開発型」の中小企業として発展を遂げてきたのである。

「指紋認証」への挑戦

近年、「情報の管理」がますます重要視されている。このような環境を踏まえ、同社が最も事業化に力をいれているのが、「指紋認証」システムである。一般的に生体認証(注1)は暗証番号やパスワードなどに比べ、非常にセキュリティ性が高く、それが広く認知されている。しかし、高速な処理装置や大量の記憶装置が必要となり、その分システムが高価になりがちであるため、認知度に比較してまだ身

近なものにはなっていない。そこで、同社は「指紋認証」システムの低価格化を目指し、自社の強みである「技術力」と「職人魂」で独自の指紋認証のシステム開発に着手したのである。



指紋認証モジュール

同社の指紋認証方式は、「特徴点(注2)」と呼ばれる指紋の情報を最大限利用している。まず、指紋を認証部に押し付けると、特殊フィルムによる感圧で、指紋の凸部のみが発光する。これをCMOSセンサー(注3)で受信し、特徴点を抽出することにより登録約3秒、認証約1秒というハイスピードで指紋の照合を行うことができるのである。また、指の乾燥・湿り気・荒れ・汚れ等がある場合や、指紋の押し付ける強さが変わっても、均一的な指紋データの採取が可能となっている。さまざまな試行錯誤の末完成したこの認証システムは、大企業が提案するシステムに比べ、軽量かつ低価格で高性能なものとなっている。

“人”こそが最も高価なリソース

こうした同社の高い技術力を支えているものは、何であろうか。IT業界は一般的にメンタルヘルス不調者の発生率が高く、離職率が高いといわれている。それでも同社が高い技術を維持できているのは、「人材育成」と「福利厚生」を重要視しているからではないだろうか。

同社は中小企業としてはユニークな人材育成制度を敷いている。特徴的なのが「グループワーク」である。同社では毎週、開発部の従業員を10名程度に分け、グループワークの時間を設けている。「指紋認証の応用」など特定のテーマを元に、チーム・メンバーが議論し、提案をまとめ上げる。特に同社は、各社員がリーダーの下に横一列に並んだ組織形態フラット・オーガニゼーションを採用しているため、議論も活発だ。通常作業を離れてのこうした学習は、最

新技術の習得や知識の向上だけでなく、開発者の提案力も向上させる。また、グループワークでの提案以外にも、全従業員はいつでも取締役の清水氏宛てに、直接メールで「企画」を送ることができるようになっている。実際に適用された「指紋認証システムを組み込んだライフルの保管庫」も、通常業務ではなくグループワークから生まれた「企画」である。

また、新入社員への教育も充実している。ビジネスマンとしての一般教養と就業規則を含めた社会人教育、情報技術者としての基礎知識を学ぶ技術教育を行う。研修開始後3カ月で、コンピュータ言語を一つ以上マスターできる程の質の高い教育だ。

「帰社日」^{イコール}＝「給料日」^{イコール}＝「飲みニケーション」

「メンタルヘルス対策」も独特だ。同社では毎月の給料日午後4時より、全社員によるミーティングが行われる。他社に出向の多い同社だが、この日ばかりは全社員が一同に集う。業務の報告や経営課題等、さまざまな意見交換が行われ、その後、終業時刻の午後6時からは社屋にてそのまま「飲みニケーション」の部がスタートするのである。“適度な”

アルコール摂取により、社員同士、交流が盛んになり、これが通常業務での円滑なコミュニケーションにつながるのである。



部下に指導を行うチームリーダー

また、同社は創業して間もなく、従業員の親睦会である「交友会」を社内に設立した。社員からの会費と同社からの助成金で成り立っており、企画・運営も交友会に一任されている。例えば社員とその家族も参加できる毎月のテニス会や、季節ごとにボウリング、バーベキュー、ビアパーティなどのイベントを実施している。この活動には、公社が運営する会員制福利厚生制度「JOYLAND」も活用している。「JOYLAND」ではレジャーやリゾート施設のほかに、スポーツ・運動施設なども割安で利用できるため、頻りに親睦会を開催する同社には好評だ。

これらの活動は一見、業務とは関係のない遊びのように見えるが、「企業と社員の一体感」を目指す同社は、業務の一環と位置づけている。実際、業務中のミーティングで「JOYLAND」の案内をしたり、社長と社内の「JOYLAND」担当者との間で打ち合わせも行っている。そし



メンタルヘルス対策として公社主催の「働く人の心の健康づくり講座」も受講、古川社長に活用法を提案するJOYLAND担当の内野さん。

て結果的に、厳しい業務環境に陥りやすいIT産業でありながら、メンタルヘルス不調者が発生していないのだ。社員を大切にこうした取組みが、同社の高い技術力を下支えしているのだろう。

株式会社アイ・ティ・シーにおける JOYLAND人気ランキング

- 第1位:富士急ハイランド
- 第2位:ラドンセンター(※終了しました)
- 第3位:東京ディズニーランド/東京ディズニーシー

アイ・ティ・シーブランドを世界へ!

同社の企業活動は、その舞台を“世界”へと広げつつある。すでに国内ではベトナム人・中国人・モンゴル人を採用していたが、平成21年にベトナムに進出の拠点となる事務所を設置することになった。通常、海外進出を行うために必要なその国のビジネス情勢の把握・法律知識の習得・手続き等をすべて自社で行わなければならないが、同社は公社の支援ツールを活用。海外展開自立化支援事業や貿易実務講習会で必要な知識を身につけ、「ベトナム海外経済視察調査団」で実際に工業団地や行政の施設を視察した。

初めは文化の違いに戸惑い、悩んだが、ベトナムの人たちと「経験」や「知識」を交換することでコミュニケーションが生まれ、こうした問題も解決したという。古川社長は「勇気を持って外へ出ること」の重要性をまさに実感したのである。

現在はモンゴルにも進出を計画している。この国は豊富な鉱物資源を抱え、日本政府の援助が進行しているにも関わらず、ITの利用が進んでいない。常に「世の中に貢献したい」「そのために企業自身のクオリティを高めたい」そう考えている株式会社アイ・ティ・シーが世界に向かったのは必然なのかもしれない。今後のグローバルなビジネス展開に大きな期待が寄せられる。

企業人材支援課 高橋由美

- (注1) 生体認証:指紋や眼球の虹彩、声紋などの身体的特徴によって本人確認を行なう生体認証方式のこと
- (注2) 特徴点:指紋の紋様における盛り上っている部分の「隆線」のうち、切れている部分の「端点」と分岐している「分岐点」をあわせたもの
- (注3) CMOS センサー:IC製造の標準的な技術であるCMOS(相補型金属酸化物半導体)を利用したイメージセンサ

企業名:株式会社アイ・ティ・シー(略称ITC)
 代表取締役社長:古川 次則
 資本金:4,500万円
 従業員数:50名
 本社所在地:東京都昭島市松原町4-3-18石川ビル
 TEL :042-545-7511
 FAX :042-545-7513
 URL :http://www.itcorp.co.jp/